



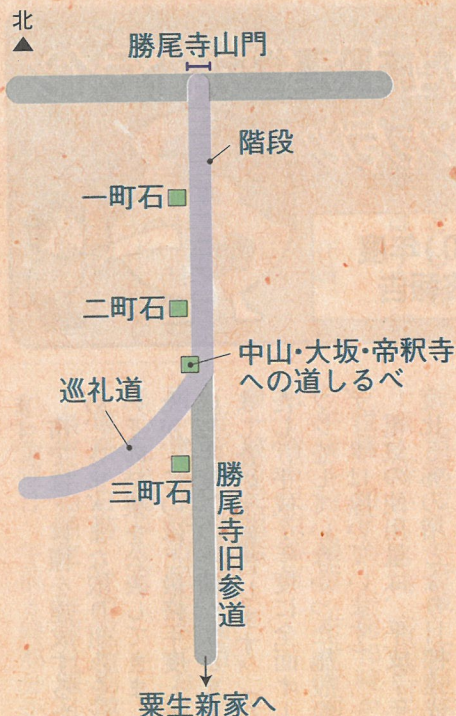
古道を訪ねて ⑬

巡礼道

(勝尾寺・中山寺)

観世音菩薩が、33の姿で現れて人々を救済するといふ信仰から、観世音菩薩を祀った33カ所の霊場を順番に訪ねる巡礼は、平安時代以前に始まったと伝えられています。始めは主に僧侶の修行のために行われていましたが、室町時代以降は、一般の人々の間にも普及し、江戸時代には全国的に広まりました。

「西国」「坂東」「秩父」



の三十三観音が特に有名になり、本市に所在する西国二十三番の札所「勝尾寺」にも多くの巡礼が訪れるようになりました。巡礼が、茨木市にある二十二番札所「総持寺」から「勝尾寺」へ来た道や、「勝尾寺」から宝塚市の二十四番札所「中山寺」へ向かった道は今も市内に残されており、「巡礼道」あるいは「巡礼街道」と呼ばれています。今回から、市内に残る巡礼道をご紹介しますが、まずは勝尾寺から中山寺へ向かって行きます。

奈良時代に光仁天皇の皇子「開成」が開山したと伝えられる勝尾寺の本尊「十一面千手観音」を参拝した巡礼は、山門を出て、真っ直ぐに南の坂道を登って行きます。寺から一町(約1

0.8m)ごとに、寺までの距離を刻んだ、日本最古の町石(宝治元年・1247年)が建てられているこの道は、栗生新家で西国街道に合流する勝尾寺の旧表参道です。



▶勝尾寺旧参道一町石

山門前から一町石を経て、二町石を過ぎてしばらく行くと、道の右手に高さ60cmほどの、先がとがった角柱形の道標があります。北面に「右中山又大坂みち」東面に「左たいしゃく」の方向と行き先が刻まれています。ここから右へ分かれる細い道が、中山寺へ向かう巡礼道で、左の旧参道を進むと、帝釈寺(栗生外院地区)へ向かうことを示しています。